

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年9月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年9月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:109、回収率:39.1%、回収期間:2023年9月20日~9月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

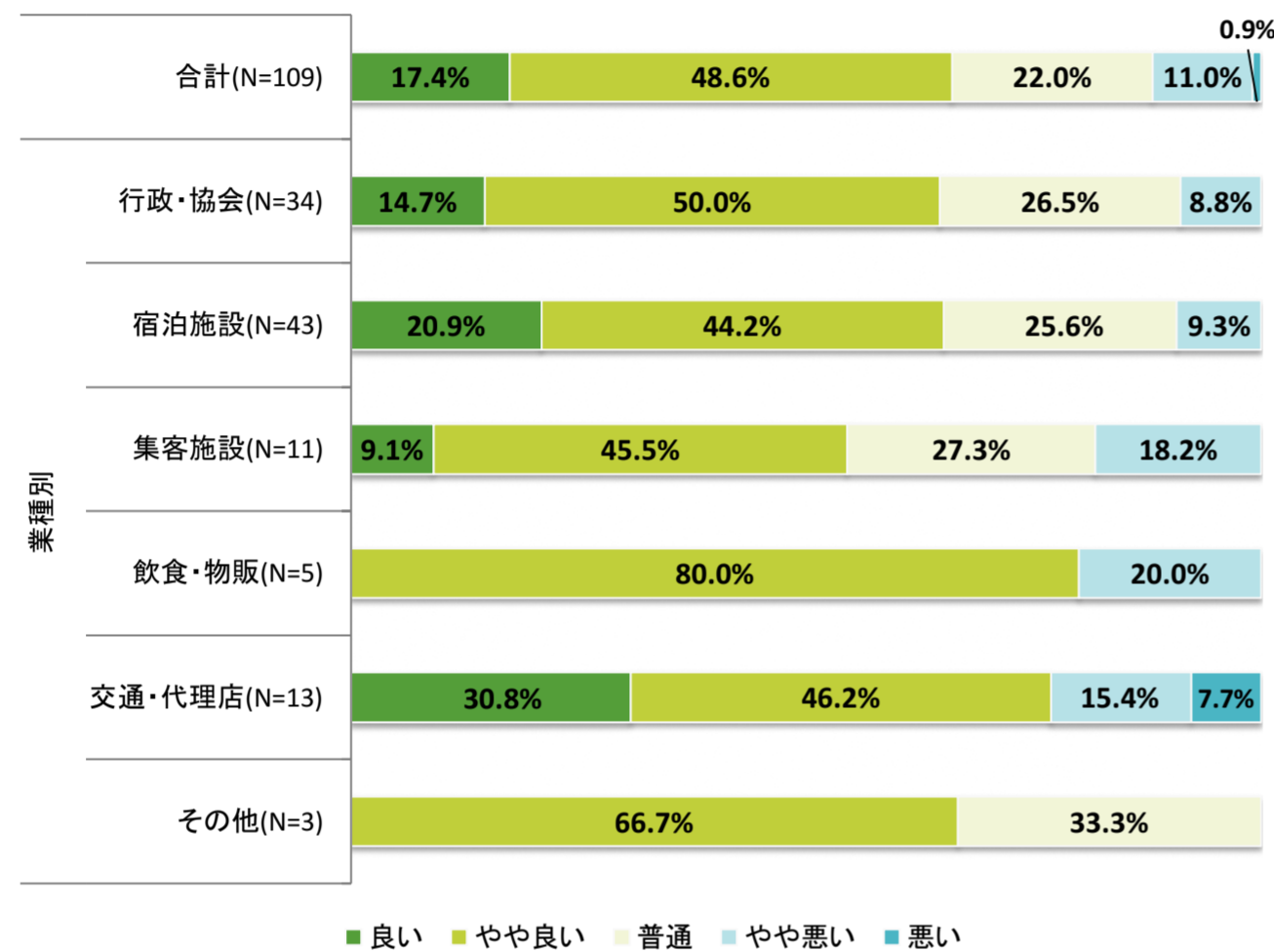
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (7月~9月)	見通しDI (10月~12月)
合計(N=109)	67.7	65.1
行政・協会(N=34)	67.6	64.7
宿泊施設(N=43)	69.2	65.1
集客施設(N=11)	61.4	65.9
飲食・物販(N=5)	65.0	80.0
交通・代理店(N=13)	69.2	61.5
その他(N=3)	66.7	58.3

7~9月の熊本県の現状判断DIは67.7となり、前期(68.2)からわずかに低下した。今期も全ての業種でDIは50を上回り、総じて好況が続いていると言える。コメントからは、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、祭りなどのイベントが例年通り実行されていること、円安によってインバウンド需要が増加していることから、旅客の需要が増えている実感を持っているものが多かった。一方、全国旅行支援が終了したことによる予約減、地元利用者の減少などについても言及されていた。

見通しDIは65.1となった。前回(64.6)から上昇し、回復基調の継続を見込む声が多かった。今後「良くなる」「やや良くなる」要因として、台北からの航空線の就航に伴うインバウンド需要の更なる回復や、紅葉など行楽シーズンの到来を挙げるコメントが多かった。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」の回答では人手不足、価格の高騰など景気に起因する心配も散見された。

2. 7~9月期の動向、景況感

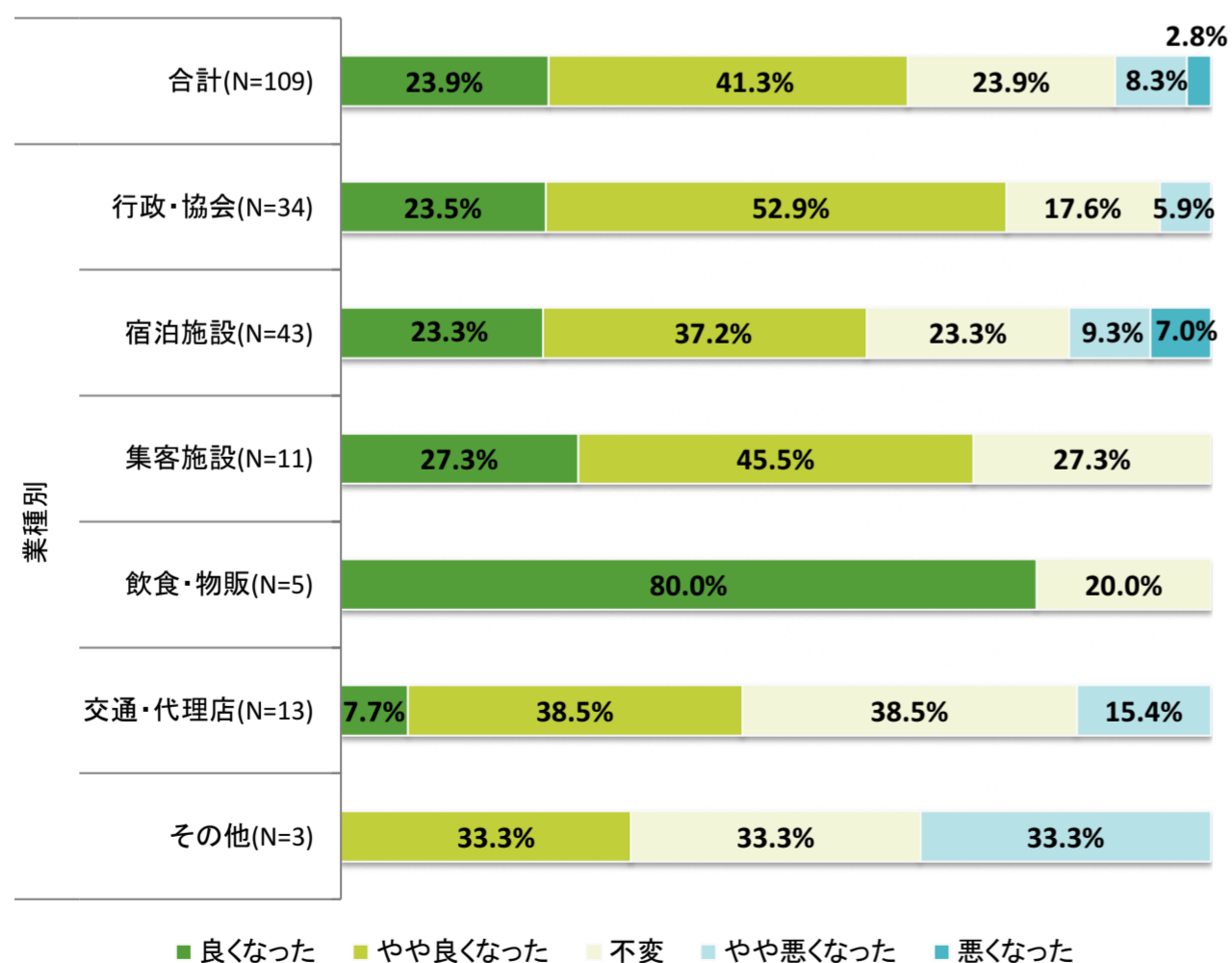


7~9月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が66.0%、「悪い」「やや悪い」は11.9%となった。全ての業種で「良い」「やや良い」の合計が50%以上を占めた。

【コメントの抜粋】

- 良い
7,8月が過去21年間で最高の売り上げを上げたから(宿泊施設)
仕事関連の長期滞在のお客様が増えた(宿泊施設)
国際・国内における旅客需要が堅調に伸長しているため(交通・代理店)
- やや良い
各種祭りが、例年の規模で開催された(行政・協会)
インバウンド需要が円安により想定よりも早く回復しているため(行政・協会)
- 普通
宿泊補助が終了し個人予約の動きが鈍化(4~6月に比べ)(宿泊施設)
昨年度よりご来場のお客様が増えている(集客施設)
- 悪い
例年同時期に比べ地元利用者が少ないと判断するため(交通・代理店)

3. 4~6月期に比べて7~9月の動向、景況感

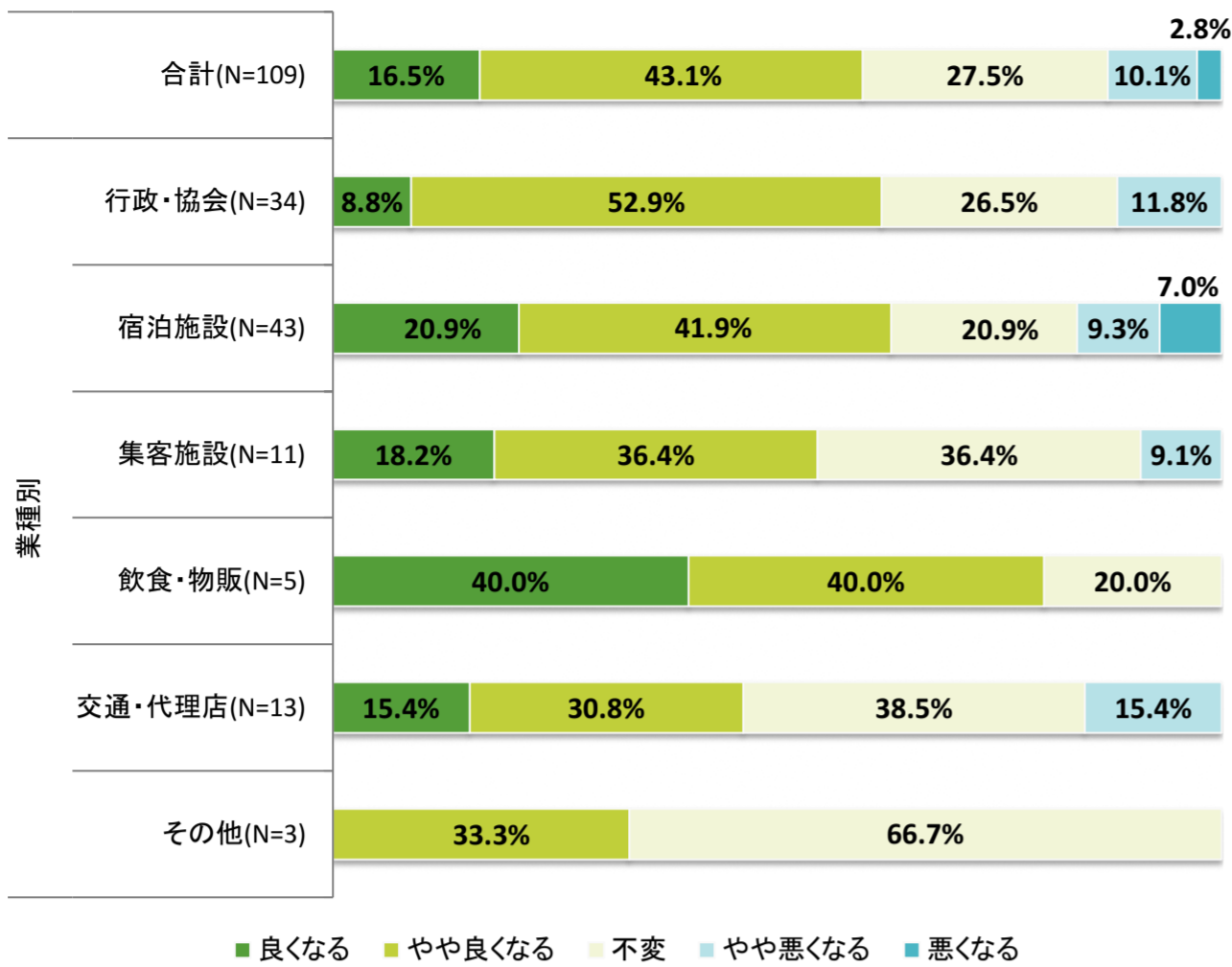


4~6月期に比べて7~9月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が65.2%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で11.1%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
雨季のキャンセルを除けば行くもん割の効果が絶大(宿泊施設)
新型コロナウイルス感染拡大防止の規制が無くなり来場者が増えている(集客施設)
- やや良くなった
ガイドの申請や、観光地に関する問い合わせが増えている(行政・協会)
夏休み、コンサート、学会による宿泊者が多かった(宿泊施設)
- 不変
団体の動きが鈍い。個人出張の増加(行政・協会)
2023.3月ぐらいから、以前と変わらない生活スタイルに戻り予約もその頃から安定して入るようになった(宿泊施設)
- やや悪くなった
コロナ5類化で帰省客増と地元イベントも増えたためか、地元利用者が少ないと判断するため(交通・代理店)
- 悪くなった
全国旅行支援の終了等(宿泊施設)

4. 今後、12月までの業況の見通し



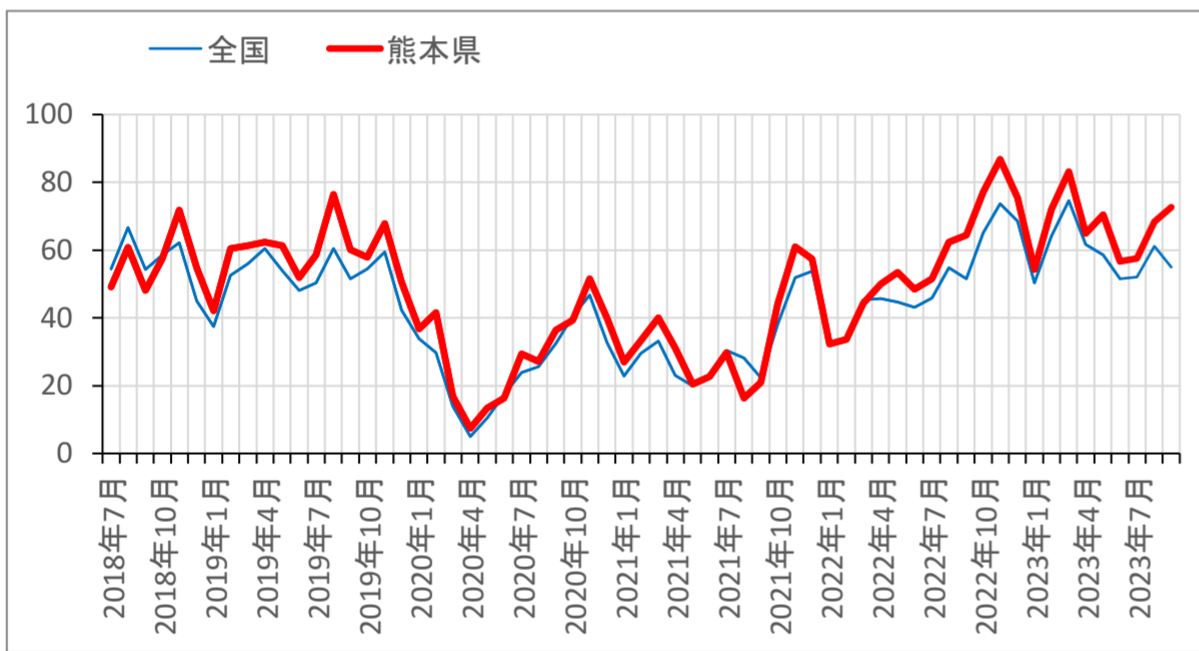
今後12月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は59.6%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は12.9%となっている。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
台北線就航及び香港線就航による外国人観光客の増加(行政・協会)
コロナ禍で旅行を我慢していた行動力がある若年層の観光活動が活発化している為(集客施設)
- やや良くなる
ビッグコンテンツの通潤橋が国宝指定された。他には、例年紅葉シーズンで観光客が多くなる(行政・協会)
以前のように感染者数が増えて自粛するといった動きが無い為、集客が安定しているため(宿泊施設)
- 不変
秋の紅葉シーズン、トロッコ列車のシーズン中はある程度の賑わいは期待できるため(行政・協会)
既存の修学旅行は例年とかわらず、団体の動きもあるが、小団体になっている(交通・代理店)
- やや悪くなる
人員及び人材の不足感と最低賃金の引上げ及び各種価格の高騰(行政・協会)
現時点での予約件数が昨年と比べると少ないため。また、問い合わせ件数も減少しているため(集客施設)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別

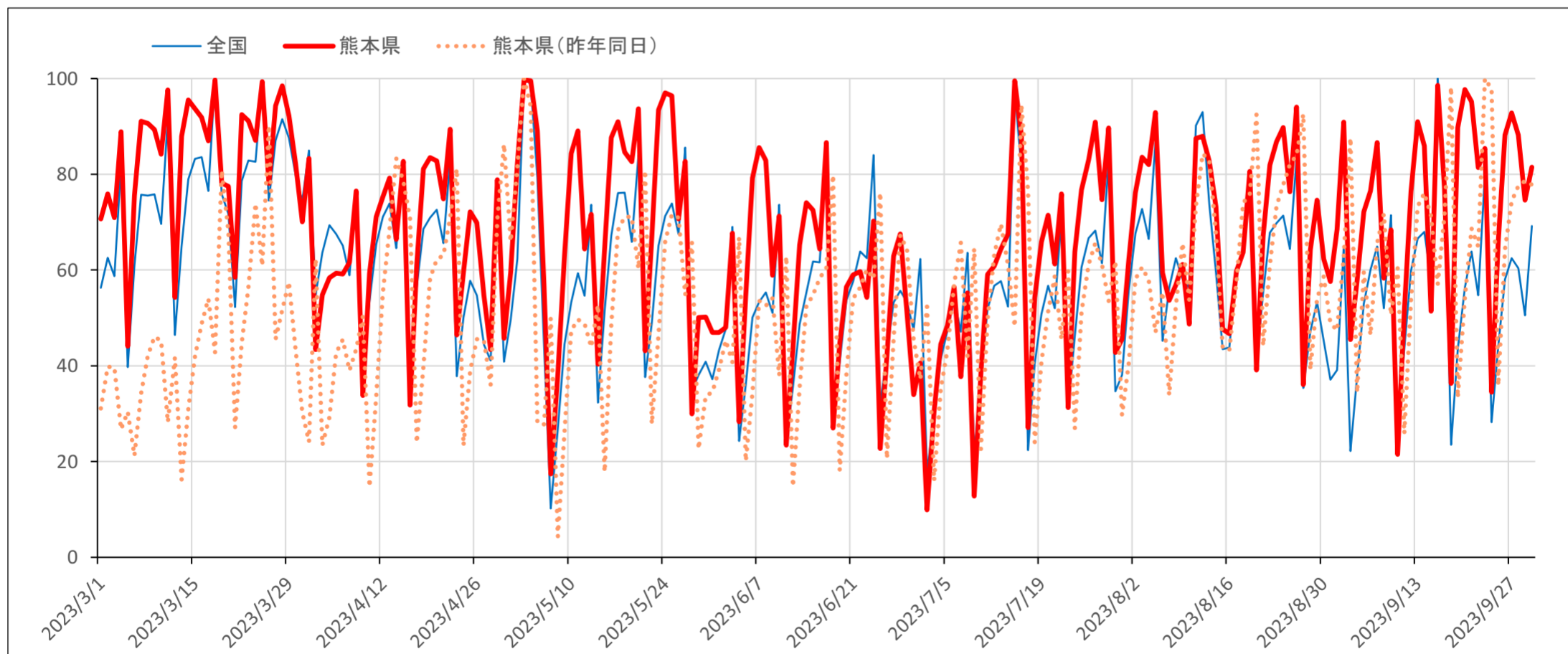


2023年7月における熊本県の宿泊稼働指数は57.6(前年差+6.0pt)、5月は68.3(同+5.9pt)、6月は72.7(同+8.2pt)となった。

年初と比較すると指数の上昇の勢いは緩やかになったものの、引き続き、前年差がプラスとなる月が続いている。また、全国の稼働指数が9月に低下した一方、熊本県では上昇し続けており、全国を上回る推移は継続している。

エリア別でみると、避暑地としての菊池渓谷を抱える菊池地域や、「ビジネスの利用が増加している」との声が多かった人吉・球磨地域で高水準での推移がみられた。一方で、天草地域、荒尾・玉名地域では低下幅が比較的大きい。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、7月上旬から8月下旬にかけて緩やかに上昇したのち、9月上旬から9月下旬にかけては横ばいに推移している。夏休みやお盆のシーズンは平日・土休日で大きな差がないまま宿泊稼働指数が推移した。7~9月で最も指数が高かったのは、海の日3連休の初日にあたる7月15日の99.5で、過去2年間で最も空室数が少ない日に迫った。

前年差をみると、7月は前年差マイナスの日が10日間みられたものの、8月、9月はともに7日間にとどまっており、前年からの回復が見取れる。全国と比較すると、月曜から木曜日にかけてはほとんどの日で熊本県が全国を上回っている一方、金曜から日曜日にかけて、全国を下回る日が比較的多くみられた。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。